



白井川沿いの三つの集落
滝が教えてくれる標高



十川③ 谷本・横白・白井川

谷本～2km～横白～2km～白井川

商店や住宅が並ぶ十川の街の西端から北へ。すぐに、長沢川にかかる橋(十川橋)を渡る道と渡らずに川沿いを右へ行く道とに分かれる。右の道を行く。十川小・中学校の裏側に回ったところにある分かれ道を右折。ここから白井川に沿って登って行く道を通称「白井川線」とも言う。この分かれ道周辺も含めた、白井川線で最初に現れる集落が谷本である。「白井川の谷の元」にある谷本から2kmほど入って行くと横白の集落。横白からさらに2km奥が白井川集落になる。この三つの集落は、戦国期および江戸期の地検帳などによれば、白井川と白井村という二つの括りになっているようだ。

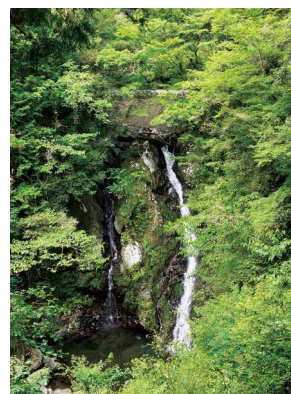
標高の高さと白井川の水量

谷本を起点に4km先の白井川集落までに三つの滝がある。中でも見応えがあるのが「白井川滝」である。大きな岩を挟んで落ちる大小2本の滝は親子のようで、落差10mとされる。横白滝という滝もまた、落差10mに迫るとされる。これらの滝を横目にしながらたどり着く、一番奥にある白井川集落の標高は当然高い。東の山を越えると大道で、西は戸川地区なのであるが、白井川の方が高い。「近隣地区より標高が高く、山からの湧き水が両サイドに流れるので、白井川の水量は昔からそれほど多くないのだろう」と地区の人は言う。

電気は奥地の方が早く来た

ここ白井川流域も山深い地域であるから、昔から林業が主

たる産業であった。奥には国有林があり早くから官舎が置かれていた。官舎には戦時中すでに電気が来ていたこともあり、官舎に近い白井川集落は「奥地」にありながら麓の集落よりも電気が来るのが早かつたらしい。また、炭焼きが盛んな頃は、炭俵を「きんま」という梯子を寝かせたような形状の木組みに乗せて奥から引っ張ってきて、その後リヤカーに積み替えて四万十川まで運んだという。さてこのリヤカー、帰りは空である。そう、学校帰りの子どもたちが「乗せてもらおう」と狙うのである。しかし、リヤカーの人も一枚上手で「急な登り坂を押してくれたら乗せてやる」と条件を出す。何とか乗せて欲しい子どもたちは泣く泣く条件を受け入れざるを得なかったのだと「60年前の子どもたち」が笑いながら語ってくれた。



なんとも美しい白井川滝

町のうごき

(6月30日)	人	口	前月比	出生	死亡	転入	転出
男	7,282	-9		男 2	13	9	7
女	7,853	-20		女 1	14	7	14
計	15,135	-29		計 3	27	16	21
世帯数	8,019	-8		(6月中の届出)			

窪川地域 10,788人 大正地域 2,081人 十和地域 2,266人